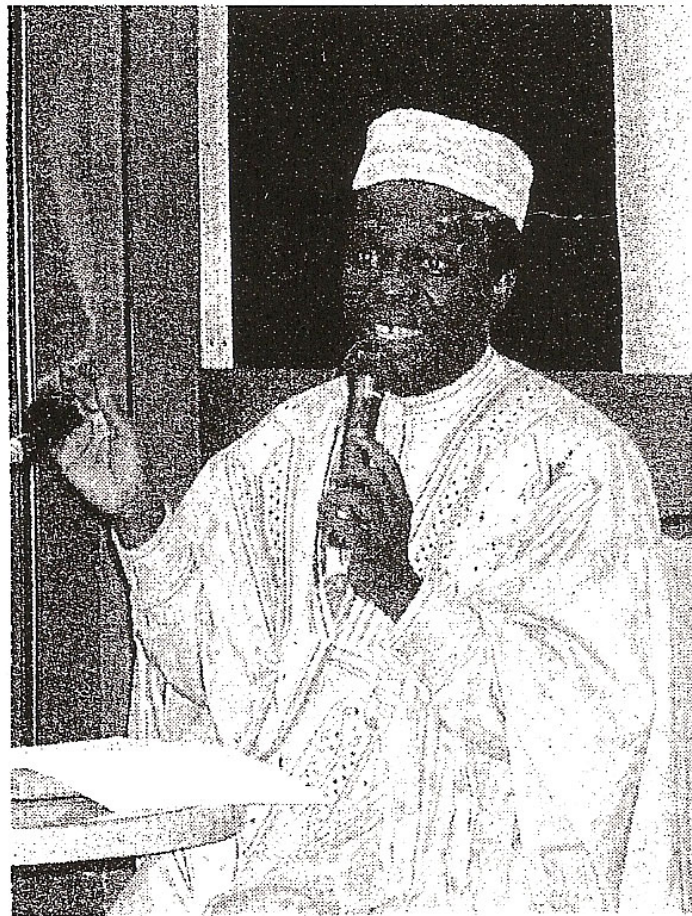


「日本の人にアフリカの子供たちのことを知ってほしい」。ギニア共和国（アフリカ）大使館顧問、オスマン・サンコンさんが大阪で熱っぽく訴えた。写真。

大阪市天王寺区の大阪国際交流センターでこのほど開かれたチャリティー・フォーラム「関西女性から見た21世紀のアジア・アフリカの子ども達へのメッセージ」西アフリカは今……。お茶の間の人気者のサンコンさんはまず、自分が出演しているコマーシャルの一節を引用しながら「テレビで踊っているばかりではないんですよ」と会場を沸かせた。「ボク自身がアフリカの宣伝マンと思っている。アフリカはまだまだ貧乏。勉強したいと思っても学校がな

## アフリカの宣伝マン



### 就学支援へひと肌ぬぐ

い。学ぶことのできない子供たちがたくさんいる。ボク自身、少年時代に足を痛めた

が、お粗末な医療のために治りきらず、今でも障害を抱えている」と、教育、医療など

多くの面で立ち遅れているアフリカの現状を訴えた。サンコンさんがテレビの人気者になったおかげで、日本にとって

たこともあったという。「日本は少子化で学校を統廃合しているが、余分な学校をボクの国に持って帰りたいくらいだ。日本では考えられないような国が世界にたくさんある。それを日本の子供たちに知ってほしい」と、故郷が置かれたつらく苦しい状況を訴えた。

今回のフォーラムは、コートジボワールやガーナなど西アフリカの子供たちの就学などを支援しているインターナショナル・ソーシヤル・サービス（ISS）石田秀会長が企画、サンコンさんがひと肌ぬいだ。

外務省の望月敏夫・大阪駐在大使も駆けつけ、祝辞のなかで、NGO活動の大切さを説いた。